

令和 6 年版

はたふり誘導講習会

横浜市 道路局 道路政策推進課

本日のトピック

1 小学生の事故の特徴

- ・小学生の事故の特徴から、はたふり誘導がなぜ必要なのか

2 子供の特徴

- ・なぜ子供は事故に遭いやすいのか、子供の特徴について

3 はたふり誘導の方法

- ・実際の旗を使った誘導方法や注意点について

本日のトピック

1 小学生の事故の特徴

2 子供の特徴

3 はたふり誘導の方法

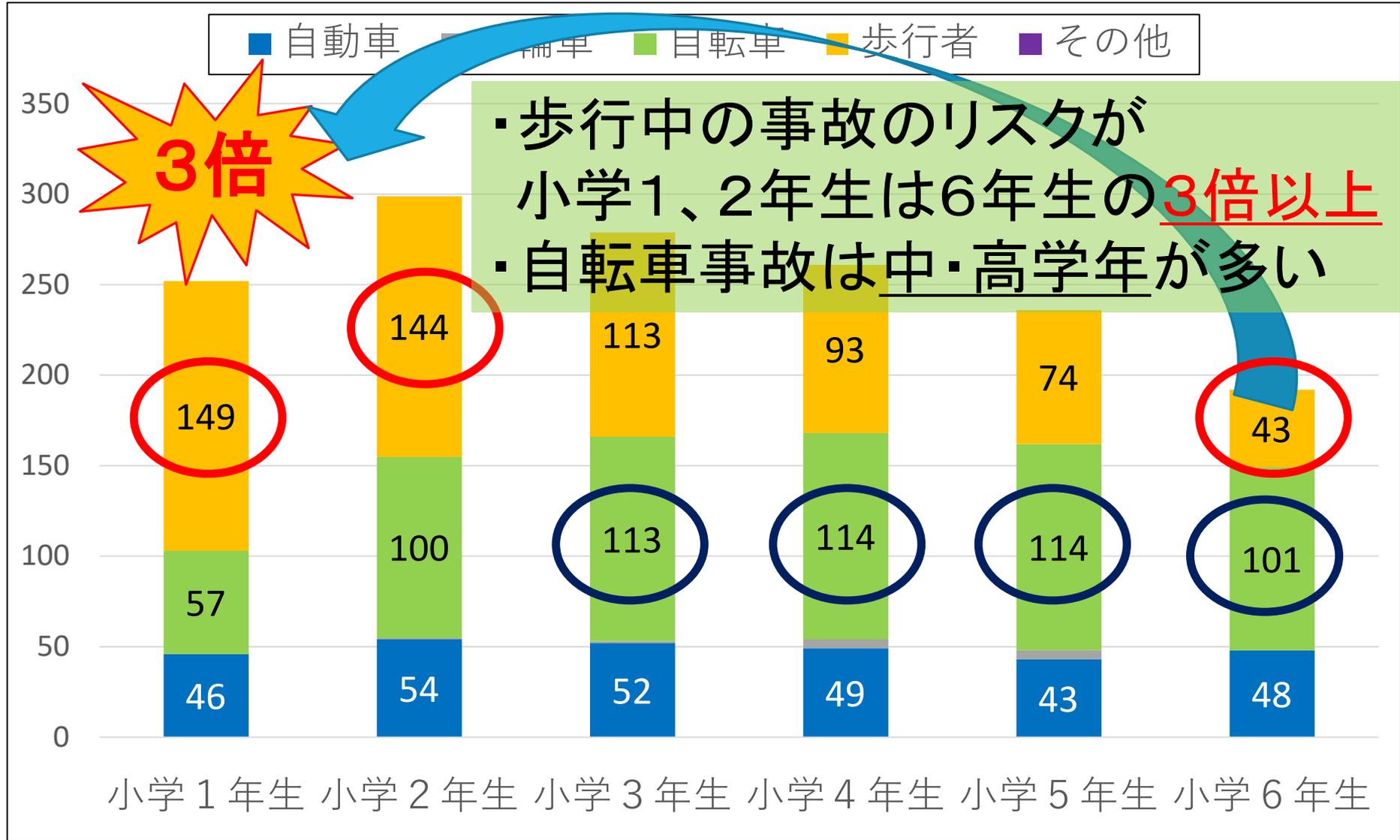


横浜市内 歩行中・年齢別死傷者数 (2019年～2023年)



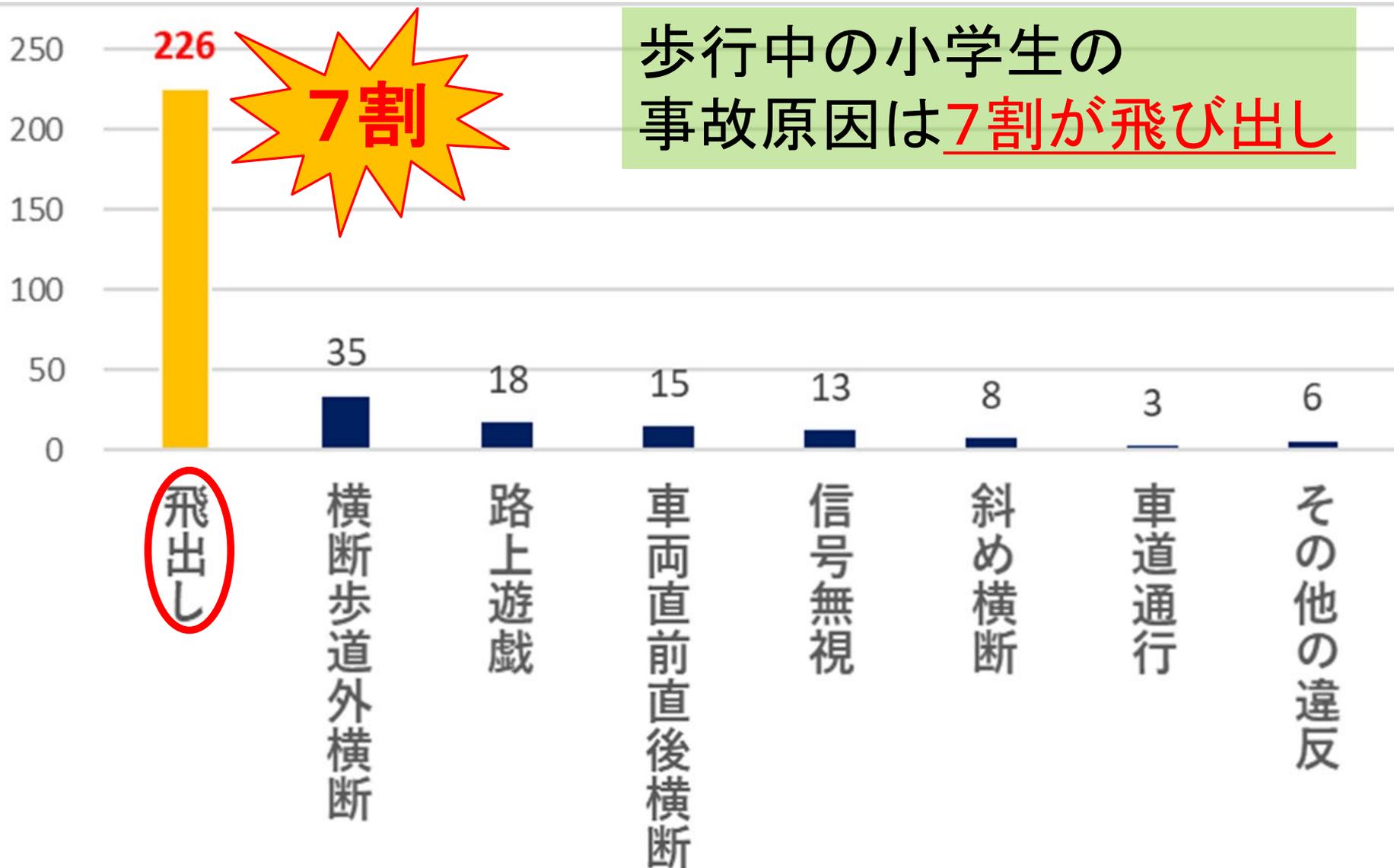


横浜市内 学年別・状態別死傷者数 (2019年～2023年)





横浜市内 歩行中小学生の事故原因 (2019年～2023年)



1 まとめ

- 7歳が最も危険 「魔の7歳」
- 低学年ほど歩行中の事故が多い
1年生は6年生の3倍
- 事故原因は 「飛び出し」

本日のトピック

1 小学生の事故の特徴

2 子供の特徴

3 はたふり誘導の方法

特性その①

視野が狭い

大人と児童の視界 (上下)



大人

児童

120°

70°

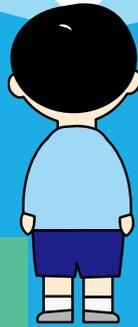
大人に比べ身長が低く、
視野が6割程度しか
見えていない

大人と児童の視界

大人150°

(左右)

児童90°



左右の視界も大人の
6割程度しか見えていない

特性その②

一点集中しやすい

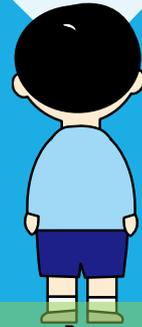
物事に一転に集中しがちで、
周囲への安全確認が疎かになりやすい

- 転がったボールを
追いかける
- 友達が走り出すと
周りを見ずについていく
- 目的地が見えると
走り出す



児童には

見えていない!



「飛び出し」は「視野の狭さ」と
「一転集中」が重なって起こりやすい

特性その③

感情コントロール

が苦手

大人に比べて感情のコントロールが不得意で、危険な行動をしてしまう

- 遊んでいて興奮
- 怒られてイライラ



「急に走り出す」

「蛇行する」

- 泣いたりうつむいたり



「周囲が見えなくなる」



特性その④

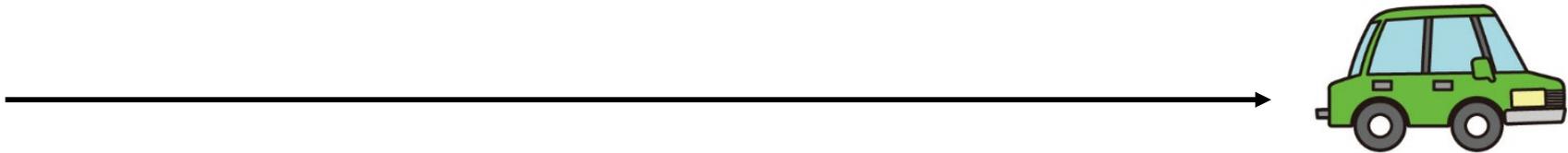
他者理解ができない

他者の立場に立って物事を考えることが出来ない
⇒車の速度や動きが理解できない

・時速30km = 秒速8.3m



・時速60km = 秒速16.6m



・**時速30km**の場合

車が来るまで

約5秒



40m

大人の場合、「速度」と「距離」から判断して、
横断歩道を渡れるか判断して**渡る**

・**時速60km**の場合

車が来るまで

約2秒



この速度だと渡れないと判断して**渡らない**

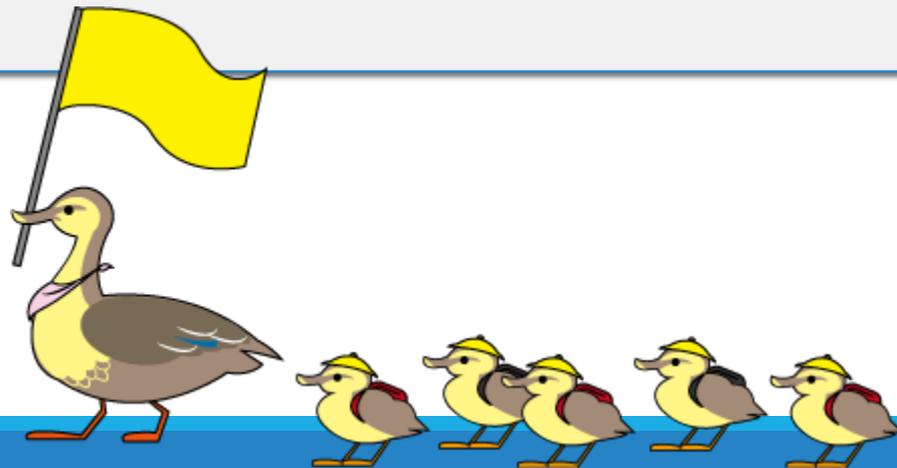


- ・子供は「速度」が理解できないので、「距離」のみで判断してしまう
- ・「飛び出し」が発生しやすい

その他にも . . .

善悪の区別なく大人の行動を模倣する

- 特に保護者の交通行動を模倣
- 大人の違反行動を模倣すれば . . .



2 まとめ

- 視野が狭く**大人の半分程度**
- 物事に**一点集中**しやすい
- **感情**のコントロールが不得意
- 他者理解(**速度判断**)が苦手

児童が道路を歩くときは、
大人のサポートが必要です！



本日のトピック

- 1 小学生の事故の特徴
- 2 子供の特性
- 3 **はたふり誘導の方法**

その1

旗振りの根拠法令

ハンドブック 14ページ

通学・通園児の保護義務

～道路交通法第14条第4項～

「児童や幼児が通学や通園のため道路を通行している場合において、誘導、合図その他適当な措置をとることが必要と認められる場所に**居合わせた者**は、これらの措置をとることによって、**児童・幼児が安全に通行できるように努めなければならない。**」

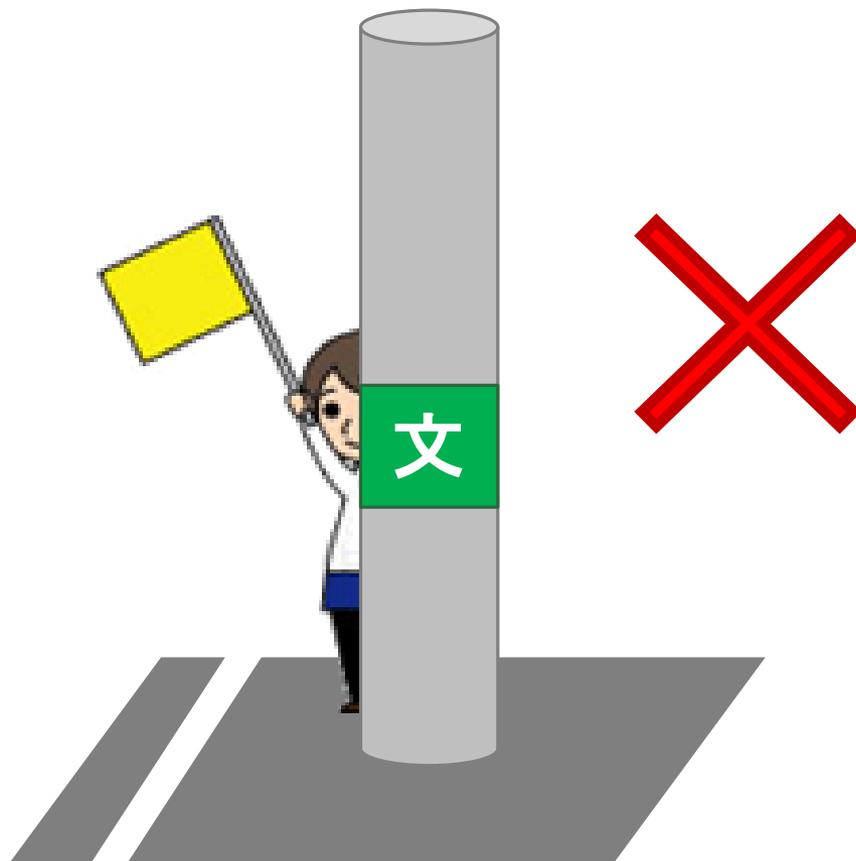
その2

誘導者の立つ位置

ハンドブック 4ページ

- 車が
 - 車から
- 良く見える位置に立つ

- 車道に出ない



- 自分から見えていても、運転手から見えてない
- 車道に出ると非常に危険です

・ 自転車横断帯の前

・ 点字ブロックの上



- ・ 自転車横断帯は自転車を通るため危険です
- ・ 点字ブロックを利用する人がいます

その3

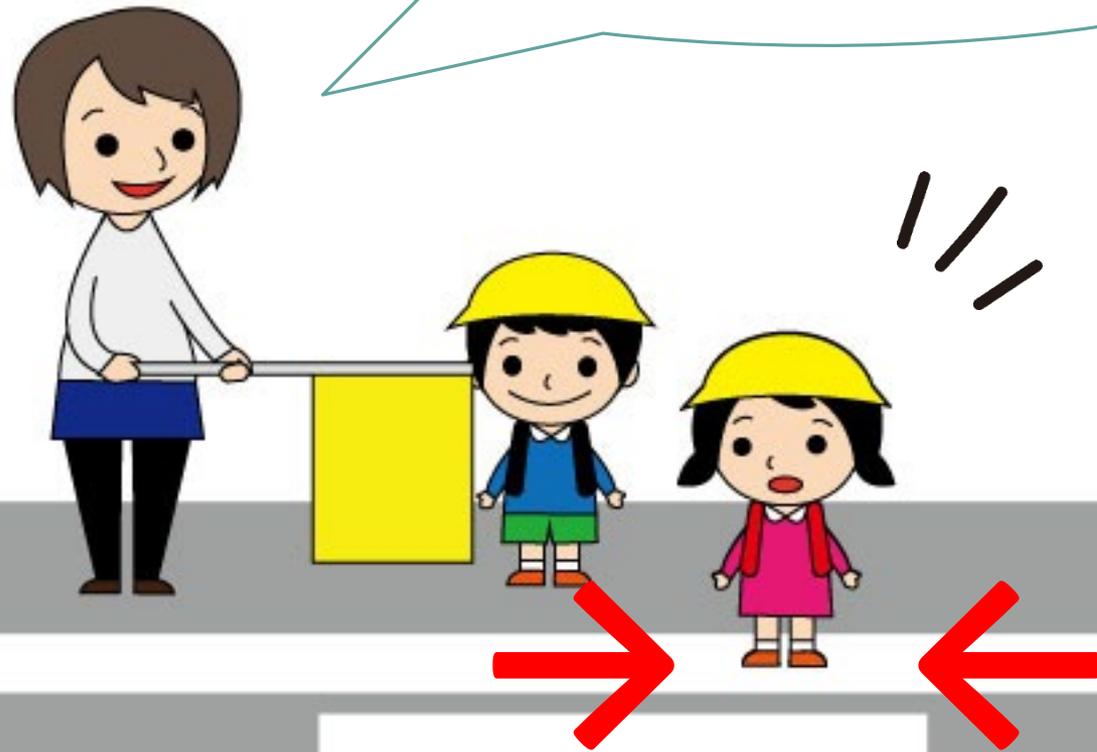
横断旗の使い方

ハンドブック 5～8ページ

①旗を水平に持ち、児童が道路に出ないように児童が見える位置に出しておきます



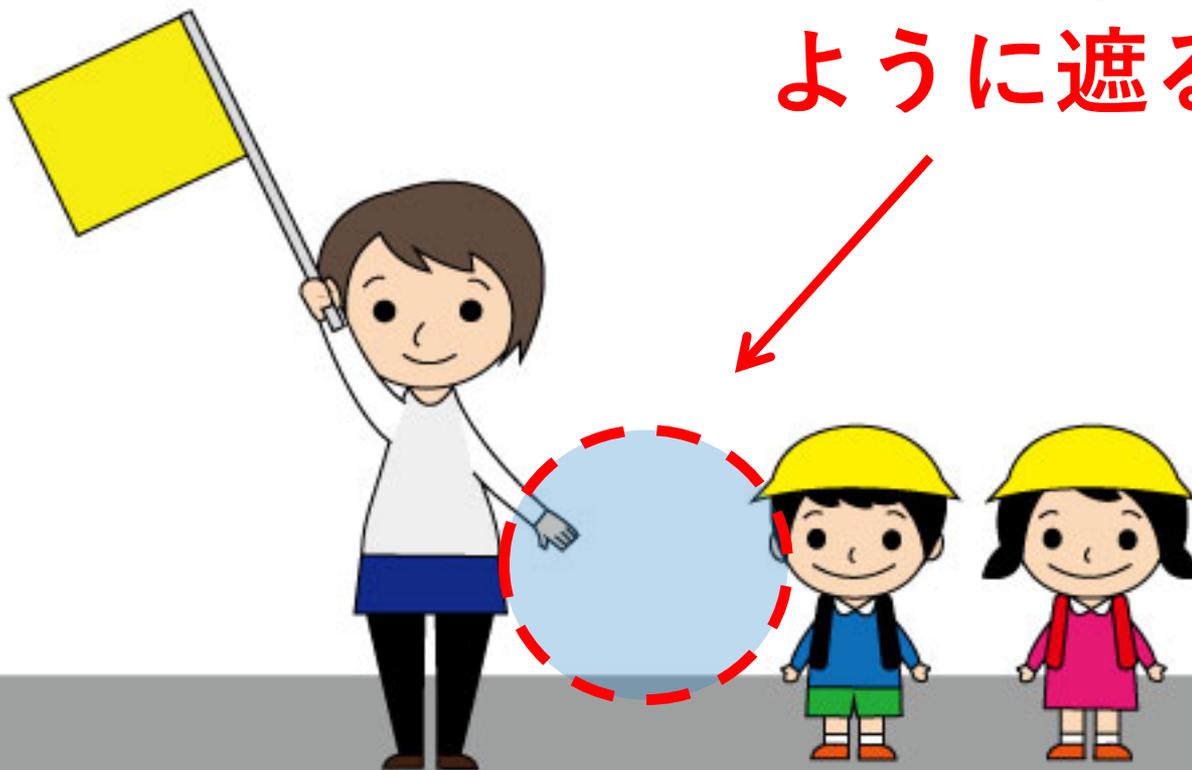
ちょっと下がって
待とうね



※車道に出たり、車道ギリギリで待っている児童に
「下がって待とうね。」と声を掛けて下さい

②児童が集まったら、左右を確認して旗を頭上に上げる

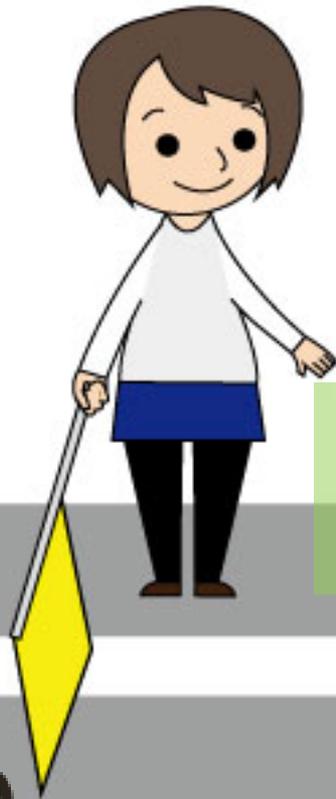
児童が飛び出さない
ように遮る



※児童が飛び出さないように、
旗を持っていない手で児童を制止します

③車が止まったら、左右を確認して旗を
運転手が見えやすい位置に出します

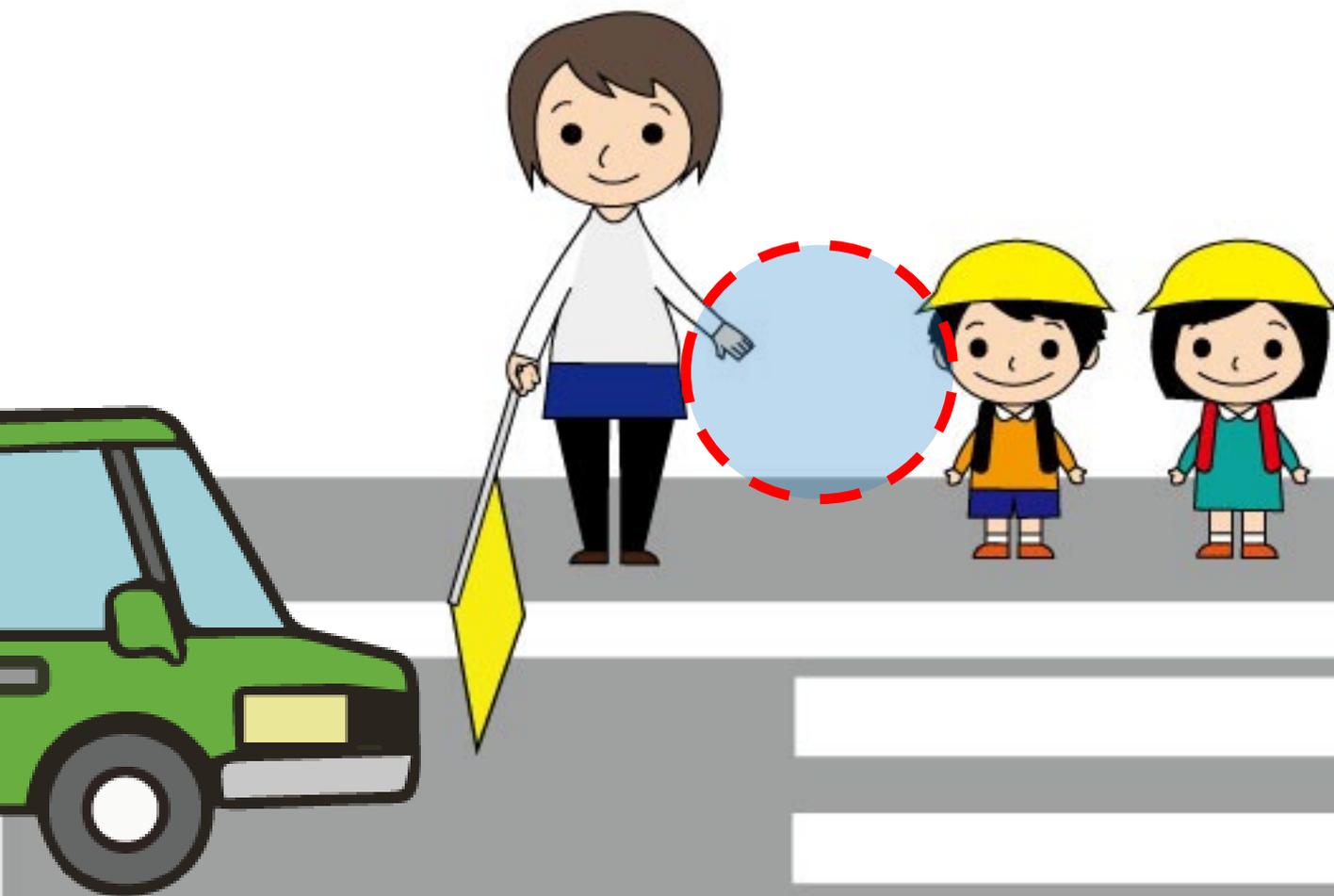
旗を道路に出して、
児童を渡らせます。



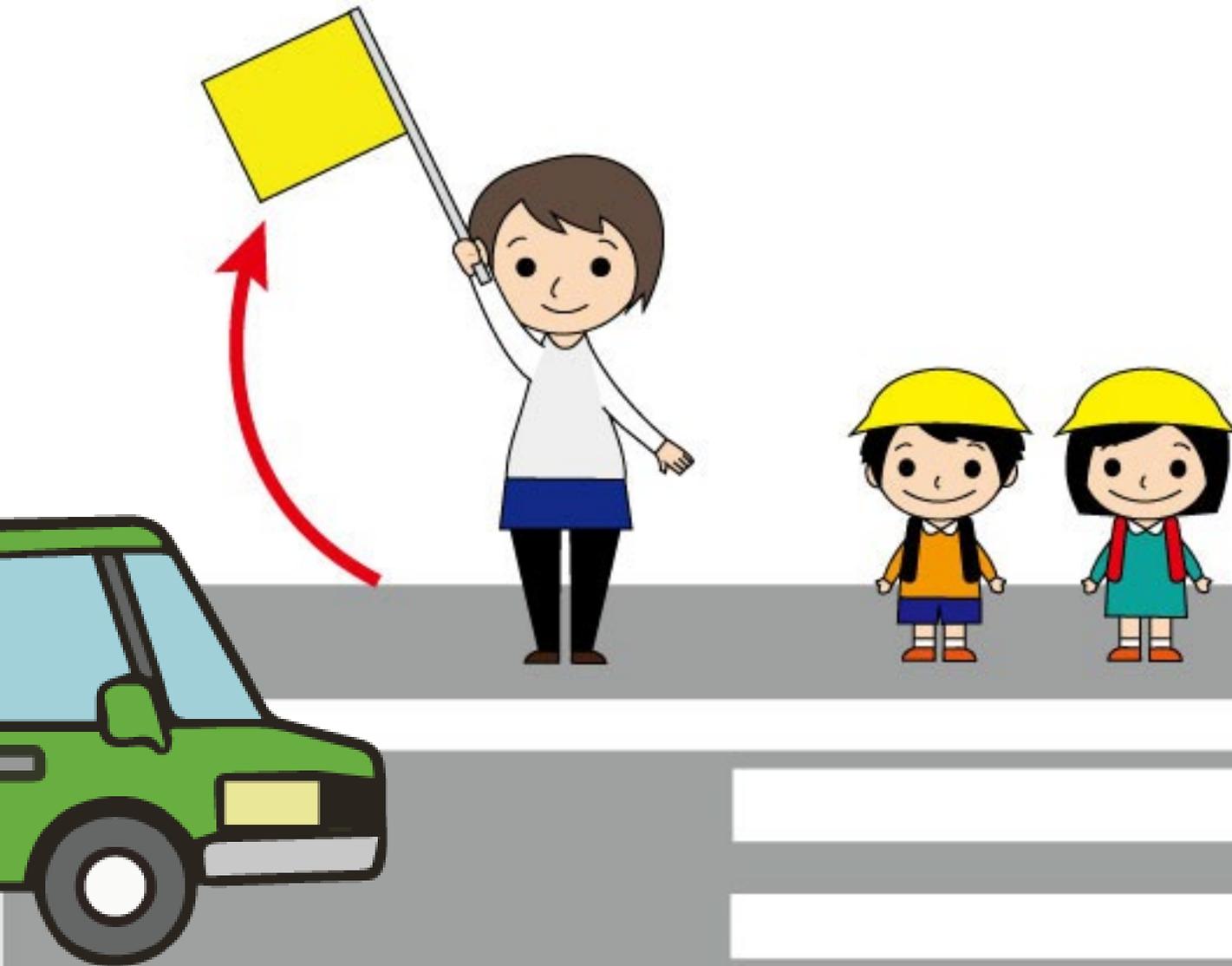
※児童にも左右の確認をさせる
手を上げさせる



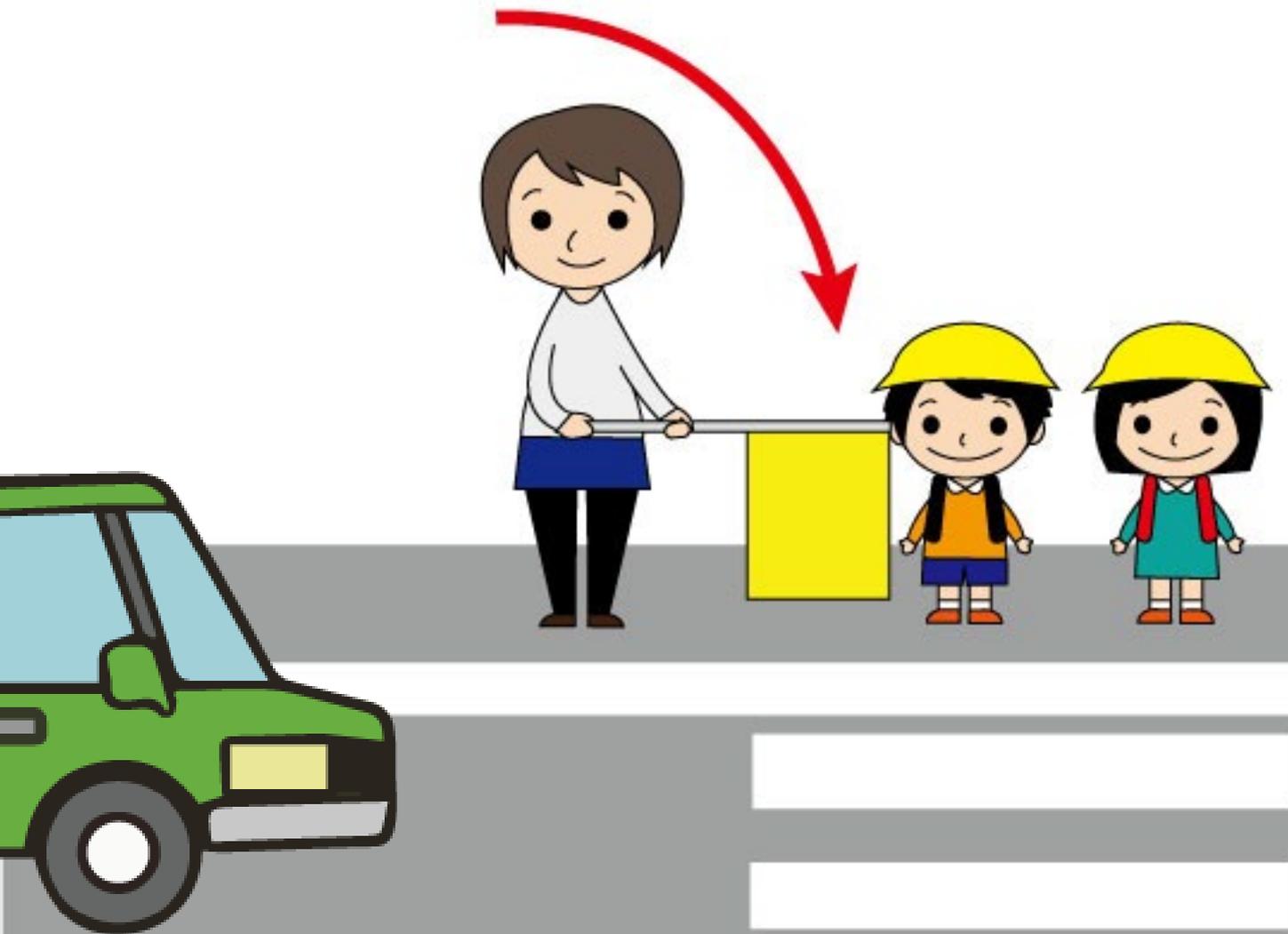
④続いてくる児童が続けて渡ってしまわないように、旗を持っていない手で制止します



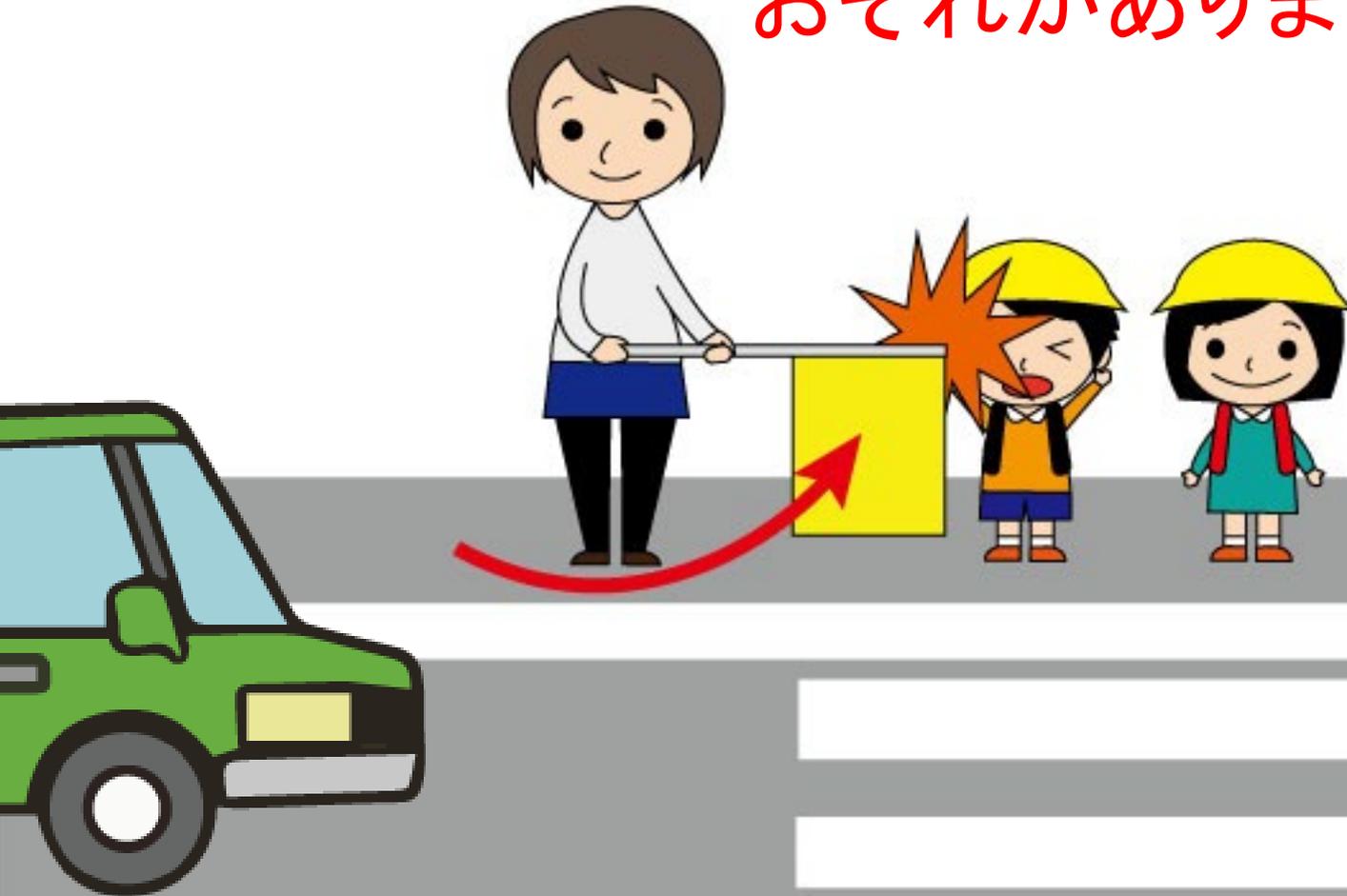
⑤児童が渡り終わったら、旗を頭上に上げます



⑥旗を手元に戻します



突然旗を手もとに戻すと、
児童にぶつけてしまう
おそれがあります！



⑦止まってくれた運転手に会釈をします





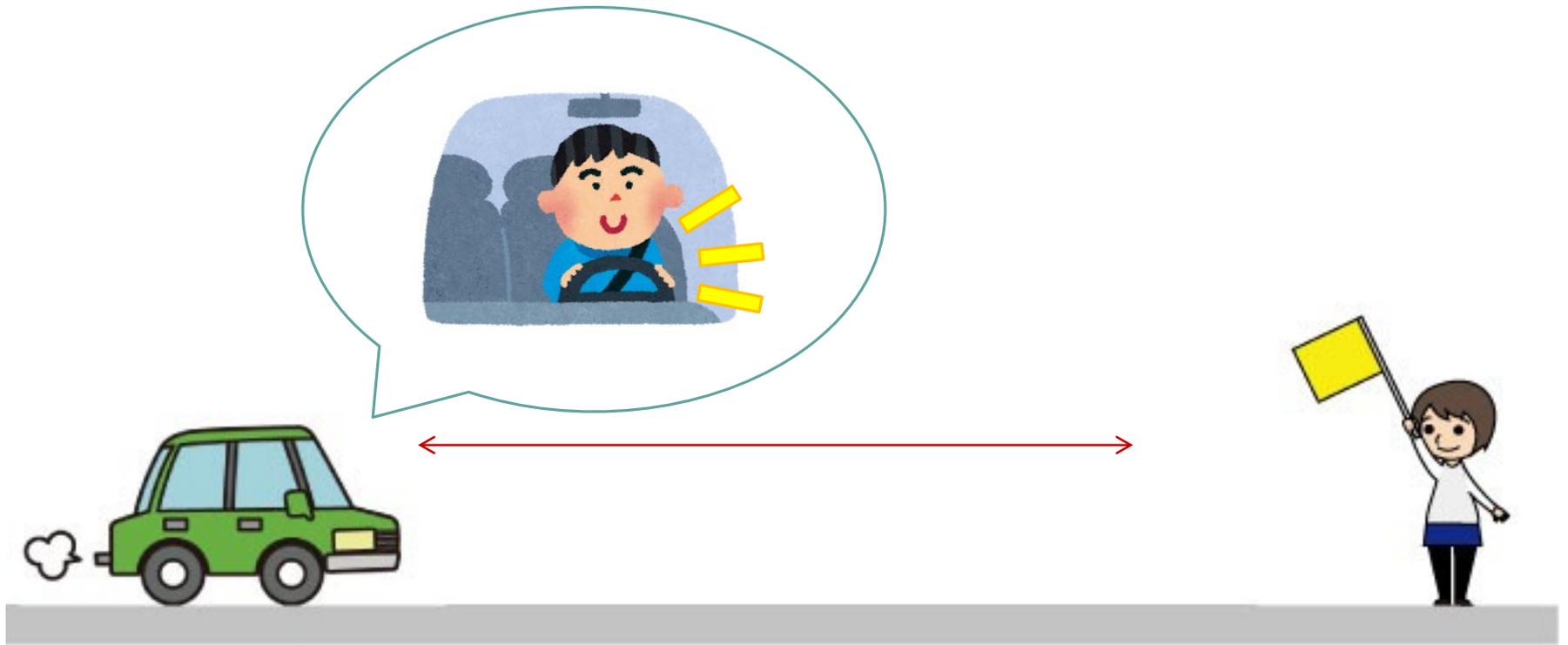
横断するときには、
手を挙げさせる

その4

横断旗のタイミング

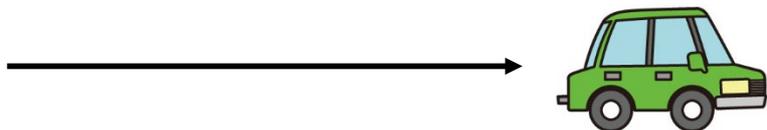
ハンドブック 4ページ

自動車が止まるために十分な距離があることを確認

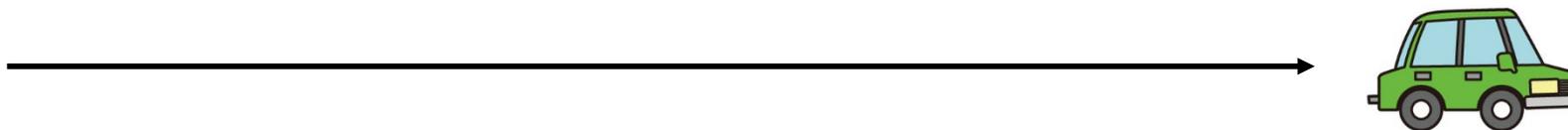


自動車が停止するには

- ・時速40kmで**22m**



- ・時速60kmで**44m**



の距離が必要

旗を出すタイミングの目安となる
目標距離（**目標物**）を決めておきましょう。

※**児童**が来る前に担当場所に着くようにして、
交通量や**速度**も確認しておきましょう

例えば・・・



このあたりに車がき
たら、旗を出そう

など

その5

注意すること

ハンドブック 9～12・3ページ

注意点①

慌てず、大きく、はっきりと

安全第一

- ・車が渋滞してしまったり、
児童が歩道に溜まってしまっても慌てない
- ・児童と自身の安全確保が第一です



- × 中途半端に旗をあげる
- × 小さい動作で旗を振る
- × あいまいな動作

曖昧な動作や伝わりにくい動作は事故の原因となる可能性があります



注意点② 自分の身も守る

- ・ 止めるとき **車道には出ない**
- ・ バイク、自転車に注意する



車両停止率 (全国平均)



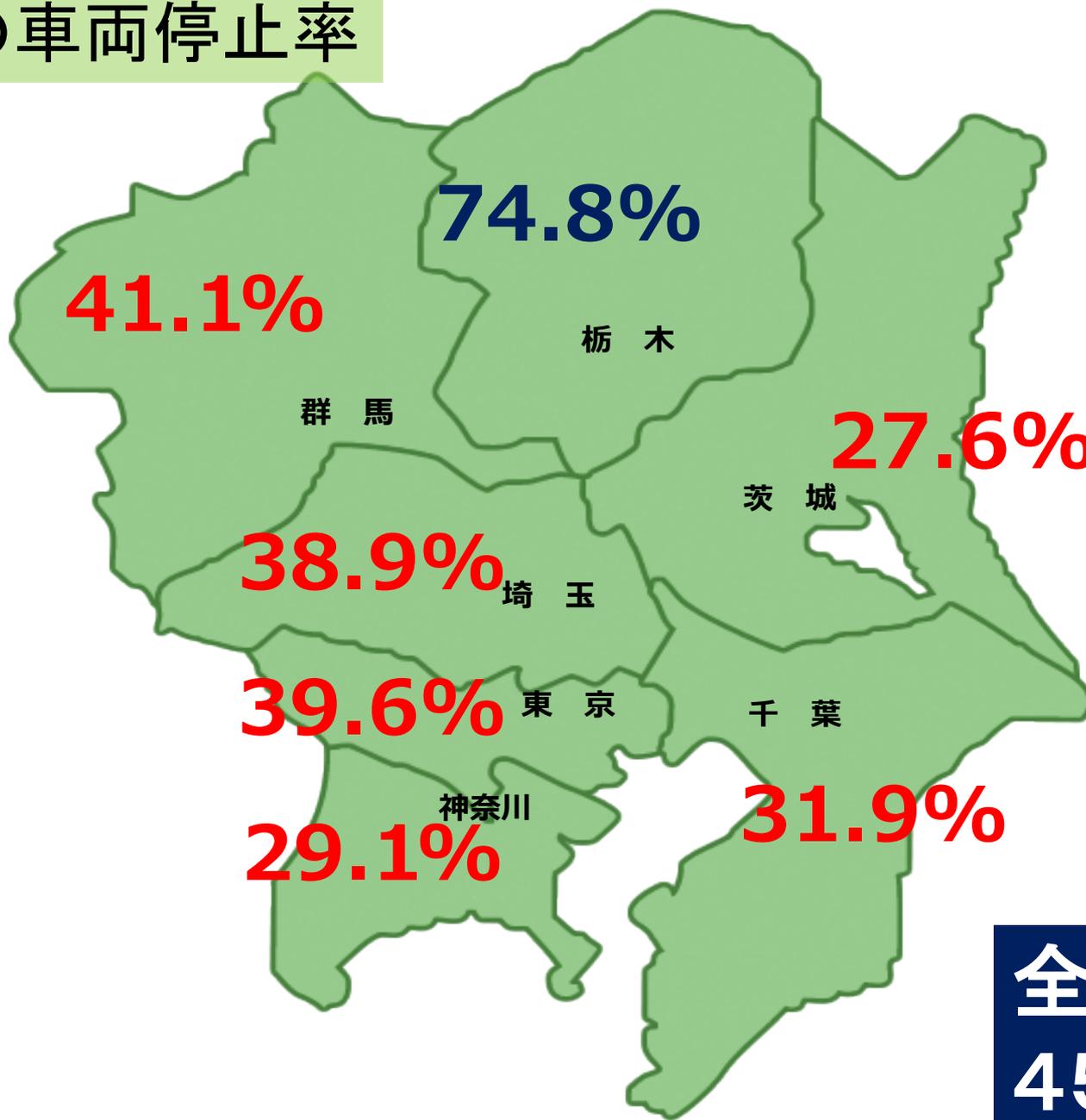
45.1%

信号機のない横断歩道で、
歩行者がいた際に車両が停止した割合です

※車両が止まらないかもしれないと考えましょう

2023年10月 JAF調べ

関東の車両停止率



全国平均
45.1%

・全国の車両停止率
(1位と47位)

新潟

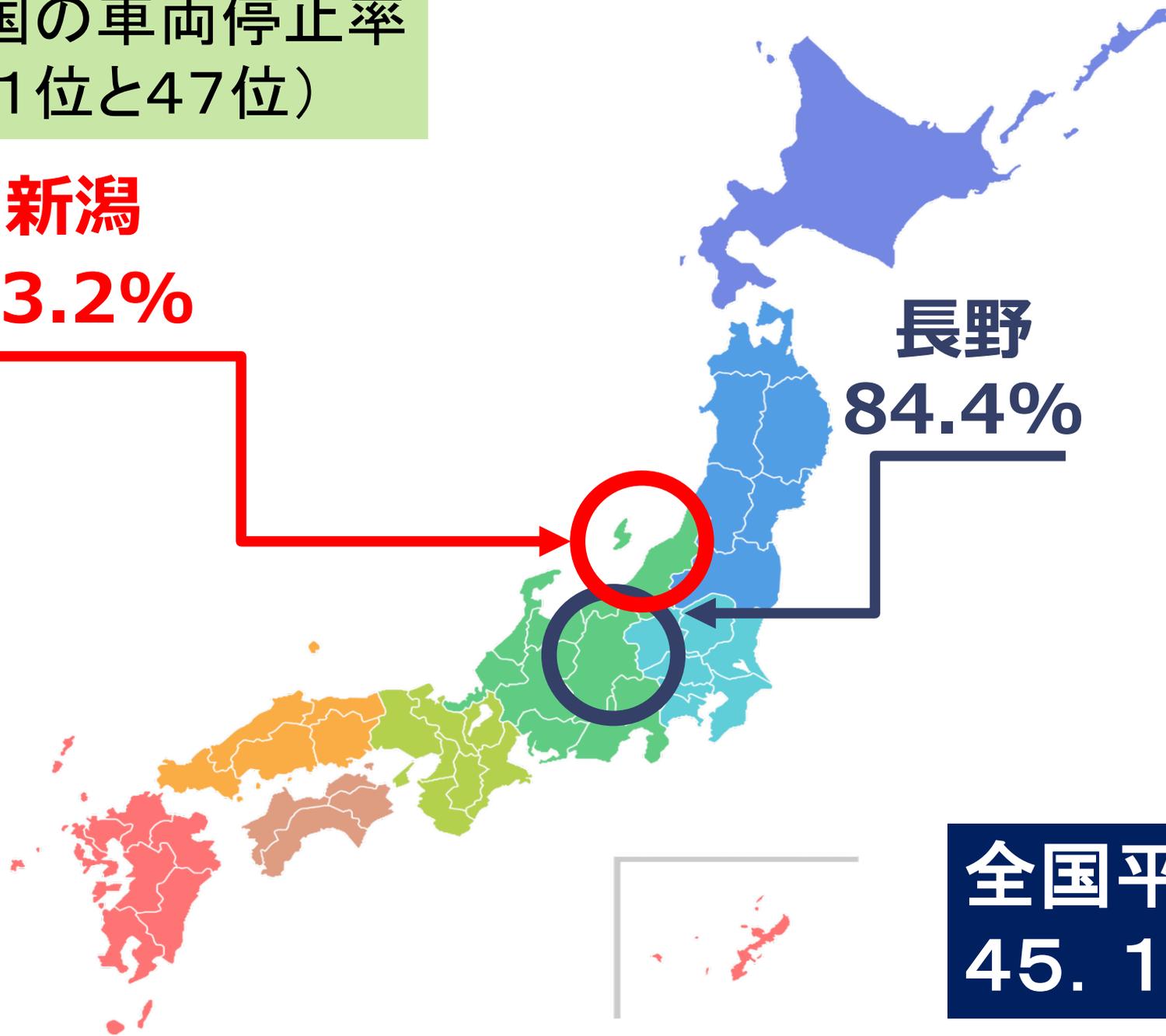
23.2%

長野

84.4%

全国平均

45.1%



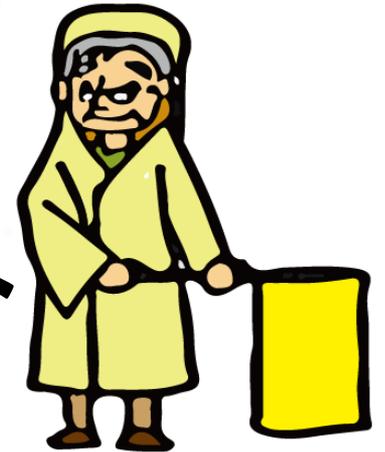
身を守るために

☂ 雨の時は…

- ・両手を使うので、傘をさしたり、バッグを持ったりしない
- ・傘は視界も遮ってしまいます

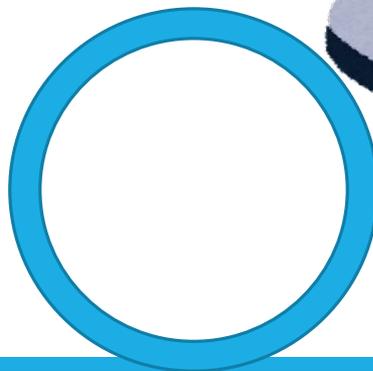


レインコート
合羽



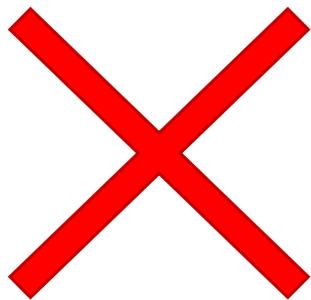
目立つ色の服装、反射材を着用 靴は、かかとの低いものを

- ・動きやすい靴で
- ・腕章やベストを貸与されている場合は、着用して、見えやすい格好で



乳児や幼児を

一緒に連れて行かない



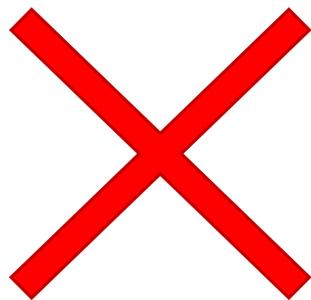
- ・もし事故に遭ったら、連れてきている子供も危険です
- ・幼児は飛び出す可能性が有
- ・旗を使った誘導もできません

注意点③ 自動車に指示をしない

- ・横断旗には、

自動車を止める 強制力は無い

・警察官とは違います



※車を止めるのは運転手です

- 協力してくれた運転手に**感謝の気持ち**を伝えたら、発進は運転者に任せる



注意点④ 信号に従う

信号のある横断歩道では信号に従う



青の点滅信号



黄色信号

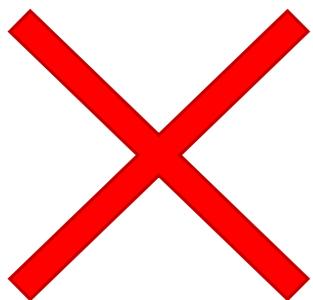


横断させない



注意点⑤ 先頭大型車は止めない

- ・ 後ろの車の運転手が前方を確認できない
- ・ 大型車を追い越すバイクがいる



自主的に止まってくれた
大型車は除きます

子供が自ら学ぶ機会を 大人が奪っていませんか？

「待つ・止まる」「安全確認をする」などを
習慣が付くように教えてあげて下さい

「安全は 心と時間の ゆとりから」

Fin



ルールちゃん まもるくん